

< 調査報告 >

知多半島の虫供養大念仏と真宗和讃（2）

坂本 要

A Study of “Dainenbutsu” in the Chita Peninsula

Kaname SAKAMOTO

この報告は「知多半島の虫供養大念仏と真宗和讃（1）」『東京家政学院筑波女子大学紀要 No. 1』1997. 3. 1に続くものである。この内容は以下の通りである。

1. 愛知県知多半島の念仏行事

2. 大野谷の虫供養

道場念仏

おためし

虫供養大法要

阿弥陀ぼんさん

承前

< 講念仏 >

以上大野谷の虫供養念仏の諸行事について記したが、大野谷13カ村には村ごとに念仏行事がある。今回榎戸に例をとったので、榎戸の念仏行事を大野谷虫供養を含めてみてみよう。

榎戸は約150軒の戸数からなる地区であるが、中は神明町・新田町・旧榎戸町の三つに分かれる。この各町に阿弥陀講があり、毎月14日は旧榎戸町、15日は神明町、16日は新田町という具合に順に阿弥陀講が開かれ、榎戸地区全体で持っている、掛け軸が回る。この

講念仏は虫供養のある、9月と1月を除き、年10回ひらかれ、各町内を順にまわっている。掛け軸は9幅あり、中央に阿弥陀立像をかかげ、阿弥陀来迎図、法然上人、弘法大師等の掛け軸を並べてかける。行事は百万遍の数珠繰りでナムアミダブツを繰り返す。

この念仏とは別に年3回の大念仏行事がある。8月23日、1月23日、12月31日150軒のうちから籤で宿を2軒選んでおこなう。1月23日の正月宿、12月31日の大年宿は同じである。ちなみに1月23日は法然上人の遠忌といわれている。行事は講念仏と同じで、阿弥陀講の掛け軸8幅を掛け、百万遍の数珠繰りを行う。8月と1月は千回午前より行い、かつては三回のオトキがでたという、12月31日の大年は短く4時頃からするが、2升取りの鏡餅が供えられる。餅は1月23日各戸に配る。この大念仏行事は各町の当人が勤行するが、榎戸全戸は同行として参詣に訪れる。実際は参詣に出来ない家が多いので、「奉唱阿弥陀寶號一百万返家内安全所」と書かれた木版刷りの札が配られる。

また前述したように毎月11日にあみだ坊さんが回ってきて、各家順に巡回供養念仏を仏

壇の前で唱える。この時は虫供養念仏の18幅のうち6幅をあみだ坊さんが持って来て掛ける。この時も当人が参加し、「現世利益和讃」を唱える。

榎戸では虫供養念仏の宿元が一人、三町ごとに当人一人、副当人二人の三人、三町で九人の当人がる。当人は前年の前当人と翌年の新当人が副当人に当たるようにして行事の傳承が絶えないように工夫されている。虫供養の念仏は十二年に一回回ってくるもので、宿元が全体を統括する。申し出によって宿元は決まるが、その家にとっては一世一代の大事になる。講念仏や虫供養念仏の資金は6月に麦の初穂料としてまた10月に稲の初穂料としてなにがしか全戸より集めて運営される。

このように榎戸内部の念仏講をみてみると、十三カ村で行なわれている虫供養大念仏のミニチュア版である百万遍念仏があり榎戸三カ町を統御していることが分かる。

別表に百万遍の掛け軸一覧、榎戸の念仏行事一覧を載せた。

榎戸講念仏掛け軸一覧

- 二十五菩薩来迎図
- 十三仏
- 法然上人画像
- 阿弥陀立像
- 阿弥陀三尊？（すすけて不明）
- 弘法大師画像
- 阿弥陀三尊像（一光三尊像）
- 千手観音像（立願山揚谷寺）

榎戸の念仏行事一覧

毎月行事	
11日	巡回供養念仏
14日・15日・16日	阿弥陀講（講念仏）
年間行事	
1月23日に近い日曜	正月百万遍念仏
6月下旬	初麦穂料集金
8月15日	盆精霊送り
8月23日に近い日曜	秋季虫供養大念仏
9月秋分の日前後の日曜	秋季虫供養大念仏
10月	稲初穂料集金
12月15日	道場大念仏開場
12月31日	大年百万遍
1月5日	道場参り
1月14日	道場おためし行事
1月15日	道場大念仏閉場
1月16日	大興寺土井家お里帰り

3．阿久比の虫供養

< 範囲 >

阿久比には、現在13ヵ村が参加する阿久比谷虫供養がある。^(注1)これは『張州雑志』^(注2)や『尾張名所図会』^(注3)に記されている。『張州雑志』に「英比庄十六村ノ供養はヲ東浦ノ供養ト称ス」^(注4)とあるから、『名所図会』の記述も同様のものである。阿久比虫供養保存会は各種の古記録を保持しているが、その中の文亀2年(1502)と記されている「尾州知多郡英比之谷古来念仏供養講番輪次之記録」には22ヵ所の当番表が載っている。地理的な範囲は現在の阿久比町と半田市の北部におさまるが、村で行なう所と寺で行なう所があったようだ。半田市に入る有脇・乙川は後の輪番表の元禄16年(1703)寛保3年(1743)にはでてこない。^(注5)現在半田市乙川海蔵寺と有脇福住寺に虫送りは残っているので、分離して現行にいたったと考えられる。文亀2年にのっている市場村・石坂村は大古根村になり、現在の植大地区になっているが、古老の記憶では植・大古根・乙川・岩滑は四遍供養といって別であったという。四遍念仏は六斎念仏であり乙川と成岩に最近まで残っていた。^(注6)

阿久比には16ヵ村あり、『張州雑志』や『尾張名所図会』はそのまま16ヵ村がおこなっているように書いてあるが、「尾州知多郡英比谷古来念仏供養講番輪次之記録」の元禄16年(1703)では13ヵ村を12年でまわるよう、萩と宮津を合同で行なうようになっている。寛保2年(1742)には横松村が加わり現行の14ヵ村を13年で回る輪番が決まった。^(注7)それはそのまま現在の阿久比町の範囲内にあり、順番は高岡・矢口・阿久比・卯之山・坂部・草木・白沢・福住・板山・宮津・萩・横松・棕岡である。植大地区は入っていない。

< 縁起および変遷 >

この阿久比虫供養の縁起はいくつかのことがからんで説明されているが、確たるものはない。まず『張州雑志』『尾張名所図会』『張州年中行事鈔』に記されていることで、英比丸伝承に起因する。菅原道真の子が道真の太宰府配流にともない、知多半島に流され後に英比之庄を賜ったことから、この地にとどまり英比丸を名乗り、この地で没した。^(注8)その供養のためにはじまったもので、『張州府志』では「御霊辻祭り」の類ではないかと記している。^(注9)

次は『阿久比谷虫供養記』^(注10)の「英比谷供養縁起記」所載の説で大原良忍上人開始説である。比叡山の麓の大原で融通念仏を広め、声明の基を築いた良忍上人は知多郡富田に生まれた人で、現在の東海市富木島町の宝珠寺が生誕の地にあたる。「縁起記」に良忍上人が「老年に迫って一朝如来之教誨を得て融通念仏を四來の道俗に倡ふ。故郷の因縁を以て其の伝え來る事や遠く其の修する事久し」とあることから、良忍が知多郡にきて、布教したとしている。地元草木の伝承によると良忍上人は大野から草木に至り、さらに東浦に抜けて布教したと伝える。良忍の生没年が1079～1132なのでこれをそのまま虫供養念仏に結びつけるのは無理と考えられる。しかし、『供養記』では良忍の母が熱田神宮大宮司の娘であったことから、熱田神宮とは因縁深く、良忍上人が熱田神宮領の大野郷宮山(現常滑市金山)に宮山寺、一名榎山寺を建てて、宮山と榎山寺の寺領であった卯之山・坂部(現阿久比町卯坂)を拠点に融通念仏を広めたとしている。^(注11)

「縁起記」では良忍上人の記のあとに、本尊開關如来は法然上人の描いたものであること、天正年間(1573～91)に戦乱にあい、凶徒に持ち去られた。本尊がないため行事は一時中断したと見られるが、元和3年(1617)に棕岡の天台宗平泉寺より山越しの阿弥陀を

譲り受け行事を再開した。本尊は熱田宿にあったが90余年後の江戸時代初期に返還されて現在も祀られている。このことから融通念仏として始まった虫供養が天台宗寺院により復興したことがわかる。その後明治の廃仏毀釈の流言により明治9年に行事を中断したところ害虫の発生や水飢饉がおこり、二、三年して復活して現在に至る。

<行事>

行事は秋彼岸の中日に行う虫供養と当番の村のみで行う1月6日の御紐解きと夏の土用に行う土用干しがある。御紐解きを行わないで寒の期間に寒干しを行なう所もある。虫供養も御紐解き・土用干しも十五・六本の掛け軸を掛けて、その前で百万遍の念仏と十五首和讃（現世利益和讃）を唱えることは、同じである。

虫供養は当番の村の寺堂もしくは神社によらず張りの道場を建てて念仏を唱える。かつては阿久比川の川原を使ったというが、本尊の掛け軸を掛ける道場小屋の他、番小屋といって七番もしくはそれ以上の小屋を建て、小屋の中に掛け軸を掛けて拝んでもらう。彼岸の中日の虫供養には十三カ村の人がお参りにきて、立ち並ぶ小屋以外に屋台も出て大にぎわいになる。会場には生木の大卒塔婆が立てられる。かつては他の知多半島の虫供養でもこのような生木の卒塔婆が立てられていたことは、『尾張名所図絵』等でわかるが、現在実際にたてているのは、阿久比虫供養のみである。卒塔婆には供養の文句が書かれ、根もとに砂が盛られる。これを虫塚といって、この砂を踏むと子供が丈夫に育つ・疳の虫がおさまるといわれ、砂を踏ませ、持ち帰る。朝9時ころから夕方までこのようにして、参詣人でごったかえすわけであるが、道場小屋では念仏が繰り返される。この十五首和讃は草木の人が導師となり双盤鉦を叩き、他の人が唱和する。百万遍は一人の人が大きな数珠

を数えるようにして操るものであるが、その役は白沢の人と決まっている。またその時両脇で念仏の数を数えるために、算木という南無阿弥陀仏と墨書した短い木の棒を積み重ねるが、その役も福住・卯の山の人と決まっている。拍子をとる太鼓は板山の人のものである。このように本尊の掛け軸の前では草木の人を中心に阿久比郷の北半分の地区の人によって法要が営まれる^(注12)。この勤行位置が草木を中心にして大念仏が営まれていたことを示していると考えられる。

他の番小屋では当番の人がお参りの人がくるたびに伏せ鉦をたたく。これは当番の村の役目である。

御紐解き・寒干し・土用干しは当番の村の寺や堂の中にすべての掛け軸をだして虫干しをして、同様の念仏を唱える。この時は当番の村の人のみで念仏や和讃を唱える。

<掛け軸>

掛け軸は基本は十三本であるが、大正13年に坂部より道元禅師像がまた昭和59年如意輪観音像と虫供養の様子を書いた白描画軸が加わった。

掛け軸の画像・由来・掛ける場所は次の通りである^(注13)。

道具小屋

中央 (1)山越し阿弥陀画像

弥陀一尊像で裏に元和3年の記年名あり。「講番輪次」の平泉寺寄付の記事あり。

左側 (2)十王図

山越し阿弥陀画像と同様の画風で平泉寺寄付とされる上壇に弥陀三尊下壇に地獄図を描く

右側 (3)道元禅師座像

大念仏勤行位置図ではこの場所往古阿弥陀像（開霽如来）を掛けることとしている。道元像は大正13年から

一番小屋⁽⁴⁾阿弥陀三尊立像

元禄年中草木掛始

二番小屋⁽⁵⁾二十五菩薩来迎図

元禄年中草木掛始

三番小屋⁽⁶⁾釈迦十六羅漢図

元禄年中草木掛始

(4)(5)(6)はいずれも京都四條藤本八右衛門
画と伝う

四番小屋⁽⁷⁾阿弥陀三尊来迎図

恵心僧都御筆元文中草木掛始

五番小屋⁽⁸⁾釈迦如来

(9)文殊菩薩

(10)普賢菩薩

(8)(9)(10)墨絵三幅で享保6年寄進され、し
ばらく掛けられず享保15年に掛けられる
ようになったので御隠居絵とよばれる。

六番小屋⁽¹¹⁾円光大師画像（法然上人画像）

(12)一枚起証文

中央に南無阿弥陀仏の名号がある

(11)(12)ともに名古屋建中寺到誉上人筆によ
るもの尾張藩主が安永3年に寄進された
もの。

七番小屋⁽¹³⁾阿弥陀立像

往古阿弥陀・金箔でかかれているところ
から黄金阿弥陀ともいう。源空（法然）
上人御筆宝暦2年草木掛始とあり。本尊
仏として開霽如来といわれる。天正年間
に持ち去られ90年後に戻されたという。

この他当番の地区によっては小屋を増や
し、聖徳太子や弘法大師の画像を掛けたりす
る。

これによりかつては⁽¹³⁾の往古如来が中心で
あったが、(1)(2)の平泉寺寄附の掛軸と(4)(5)(6)
の草木寺院の掛軸が加わったことがわかる。

<草木十五日講>

草木では毎月十五日に公民館に阿弥陀講の
人が集まり、念仏を唱える。中央に山越しの
阿弥陀画像を掛ける。虫供養念仏と同じで、
十五首和讃（現世利益和讃）と融通念仏百万

遍を唱える。百万遍の時は一人が数珠を繰り、
一人が札回数を数える。

(注1) 阿久比の虫供養については、鈴木泰山「尾張知多
郡阿久比の虫供養について」『愛知大学総合郷土研究
所紀要』No.9 1963があり、虫供養の成立に天台宗
真盛派の関与を論じている。別に史料を年代順に並べ
て変遷を述べたものに 竹内禅英「阿久比虫谷供養雜
記」が『阿久比町郷土史編纂資料集』阿久比町郷土史
編纂委員会 1953 に納められている。これは翌年
1954にさらに虫供養の資料だけを独立させて『阿久比
谷虫供養記』阿久比町郷土史編纂委員会 として刊行
している。この本はガリ版刷りであるが同様の内容の
ものに唱え文句等を加えてタイプ刷りにしたものが
『阿久比谷虫供養郷土史』1973で、各地区の虫供養当
事者に広く流布している。竹内禅英氏は阿久比草木正
盛院の住職であった。

(注2) 『張州雑志』は尾張藩士内藤東甫が書いたもので、
安永年間（1772～1780）に執筆されたとされる。巻一
の知多郡の項に「虫供養」と題して五枚の絵とともに、
その様子がこと細かに書かれている。（刊本 愛知県
郷土資料刊行会 1975 p63～73）図絵1、2参照

(注3) 『尾張名所図会』小田切春江 天保12年（1841）
愛知郷土資料刊行会 1970 図絵3参照

(注4) 現在知多郡東浦町で行われている虫供養は、これ
らの記述とは別のもので、『張州府志』（松平君山 宝
暦2年<1752>愛知県郷土資料刊行会 1974）には
「緒川五郷」にもあると記されているものにあたる。

(注5) 講番については別表1参照

(注6) 乙川・成岩の四遍念仏については、次項に記述

(注7) 『張州年中行事鈔』には「英比供養 同郡十六村西
浦」として「大村・小根村」の記載がある。『張州年
中行事鈔』小畠広林撰編、横井時文再訂。明和6年<
1769>と自序に記してあるが、小畠広林が調査したも
のを、小畠死後横井時文が大幅追加して出版したと見
られている。（芥子川律治「張州年中行事鈔 解説」
『名古屋叢書三編第八巻』名古屋市蓬左文庫刊 1983）
したがって正確な調査年不明。大村・小根村は現在の
植大地区と考えられる。

(注8) 『張州雑志』には英比丸は「菅公三男」とあるが、

英比丸が菅原道真の第何子にあたるかは不明で、第五子とも孫とも伝える所もあり、配流のことも伝説の域をでない。なお英比・阿久比は地名よりとった名前である。

(注9)『張州年中行事鈔』(1769)には「英比殿と申木像男女二体」を英比丸の像と伝え、「臼の上」に祀り、「左近殿とも廻り地蔵とも名付け」て、「八月彼岸中日に出し祭る也」とある。

(注10) 虫供養の史料として公開されているものに前述(注1)の『阿久比谷虫供養記』のうち「阿久比虫供養雑記」を除いた分と『阿久比町誌 資料編7』(阿久比町史編さん委員会 1994)所載の「英比谷虫供養保存会文書」「虫供養宮津区有文書」がある。

『阿久比谷虫供養記』と「英比谷虫供養保存会文書」はほぼ同じである。

内容は a 「尾州知多郡英比谷古来念仏供養講番輪次之記録」文亀2年(1502)元禄16年(1703)寛保3年(1743)の輪番表と明治7年(1874)までの年次を追った記録

b 「阿久比谷虫供養基帳」英比谷供養縁起記・供養精進記・御絵改覚・他。宝暦2年(1752)

c 「過現簿」念仏講で供養する神仏・聖人を日別に書いたもの。元禄16年(1742)

d 「点鬼簿」念仏講で供養する人の戒名を村ごとに書いたもの。元文4年(1739)

『供養記』は他に「虫供養場渡帳」明治22年に「阿久比谷弥陀仏受渡目録(大字高岡)」昭和28年を載せる。「保存会文書」は他に「虫供養仏記録簿」明治35年～昭和57年を載せる。

(注11) 熱田神宮領の話は文和3年(1354)の「熱田大神宮御袖領目録」による。檀山寺はその後、時宗になり金蓮寺と名を変えたが、佐治氏の進出により文明年間(1469～1486)に大野城の築城にもなって破却されたと伝えて、現在地名のみを残している。なお大野の虫供養はこの佐治氏の大野城が天文年間に落城した(天文元年<1532>説と天文9年<1540>説がある)際、持ち出された守り本尊の阿弥陀の掛け軸を祀って、滅亡した佐治一族を供養したのが始まりとされる。

(注12) 別図1大念仏勤行位置図参照

(注13) この資料は『虫供養仏記録簿』にある宝暦2年(1752)「御絵改覚」および『阿久比谷虫供養記』所載昭和28年「阿久比谷弥陀仏受渡目録」によった。

別表1 念仏講番比較

文龜2年	元禄15年(干支順)	寛保3年	現行	
1 伊瀬村				
2 板山村	卯 板山村	6 板山村	9 板山	
3 市場村				
4 坂部村	辰 坂部村	7 坂部村	5 坂部	
5 椋原村	巳 椋原村	8 椋原村	13 椋岡	
6 角岡村	午 角岡村	9 角岡村		
7 比江宮村	亥 稗野原村	2 稗之宮村	3 阿久比	
8 有脇村				
9 艸木村	未 艸木村	10 艸木村	6 草木	
10 白沢村	申 白沢村	11 白沢村	7 白沢	
11 炊田村				
12 宮津村	酉 萩宮津村	12 萩村宮津村	10 宮津	11 萩
13 高岡村	戌 高岡村	1 高岡	1 高岡	
14 乙川村				
15 菟山村	子 卯之山村	4 卯之山村	4 卯之山	
16 福住村	丑 福住村	4 福住村	8 福住	
17 薬師寺				
18 西光坊				
19 濟乘院	寅 矢口村	5 矢口村	2 矢口	
20 石坂村				
21 長光寺				
22 草木村				
		13 横松村	12 横松	

別表2 阿久比虫供養大念仏念仏帳

阿久比虫供養念仏講和讃 全

懺悔文

我昔所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 從身口意之所生 一切我今皆懺悔

三歸依文

南無歸依仏 南無歸依法 南無歸依僧

歸依仏無上尊 歸依法離塵尊 歸依僧和合尊

歸依仏竟 歸依法竟 歸依僧竟

諸仏名号

南無阿彌陀仏 南無三世之諸仏 二十五之菩薩

不動 釈迦 文殊 地蔵 弥勒 薬師 観音 勢至 阿彌陀 阿闍 大日

虚空蔵 光明遍照 十方世界 念仏衆生 撰取不捨

南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏

(五唱一回 算木の図 12段72本立積が先 虫供養最初6本10回)

第一 普回向

願以此功德 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国

現世利益和讃

阿彌陀如来らいげして 息災延命の爲にとて 金光明の寿量ぼん 説おき玉へるみ法なり
 山家の傳教大師は 国土人民を憐れみて 七難消滅の誦文には 南無阿彌陀仏となふべし
 一切のくどくにすぐれたる 南無阿彌陀仏をとなふれば 三世の重障みなながら
 かならず轉じてきよう徹なり 南無阿彌陀仏を唱ふれば この世の利やくはきわもなし
 流転里ん廻の罪きへて 定業中天のぞくなり 南無阿彌陀仏をとなふれば
 梵天帝釈帰きようす 諸天善神ことごとく 夜昼常にまもるなり 南無阿彌陀仏をとなふ
 れば 四天大王もろともに 夜昼常に守りつつ よ路づの悪鬼を近づけず 南無阿彌陀仏
 をとなふれば 堅牢ちぎはそんきようす 影とかたちのごとくにて 夜昼常に守なり 南
 無阿彌陀仏をとなふれば 難陀跋難大竜とう 無量の龍神尊きようし 夜昼常にまもるな
 り 南無阿彌陀仏をとなふれば 災魔ほうおうそんきようす 五道の冥官皆ともに
 夜昼常にまもるなり 南無阿彌陀仏をとなふれば 他化天の大魔王 釈迦牟尼仏の御前に
 て 守らんとこそちかひしが 天神地祇はことごとく 善鬼神と名付けたり 是等の善神
 みなともに 念仏の人をまもるなり 願力ふしぎのしんじんは 大菩提心なりければ
 天地にみつる悪鬼神 みなことごとくにおそるなり 南無阿彌陀仏をとなふれば 観音勢
 至はもろともに 恒沙塵数の菩薩と かげの如くに身にそへり 無碍光ぶつる光には
 むしゆの阿彌陀ましまして 化仏おのおのことごとく 眞実信心をまもるなり 南無阿彌
 陀仏をとなふれば 十法無量の諸仏は 百重千重圍繞して 歡びまもりたまふなり

第二普回向

願以此功德 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国
光明遍照 十方世界 念仏衆生 攝取不捨
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
（五唱一回 算木の図 虫供養五本積五段
14日阿弥陀南無阿弥陀仏を繰り返すその都度 願以此功德）

本回向

願以此功德 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国
南無無盡十方三世之諸仏 無盡以一切諸菩薩 摩訶薩 八萬諸々行皆是阿弥陀仏
諸行無常 是生滅法 生滅々已 寂滅為樂 迷故三界城 悟故十方空 本来無東西
何処有南北 懺悔懺悔 六根清浄 滅除煩惱 滅除業障 一仏成道 貫匡
法界僧摩 都故苦道 悉皆成仏

導師本回向

摩訶般若波羅蜜多心經（略）
舍利礼文 （略）

導師普回向

十方三世一切仏 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅蜜多 （終了）

草木十五日講 御回向 (算木組方十二段積休)

第一番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今上天皇陛下聖寿無窮人民和平皇国強固国土昇平豊作延長区内人民諸願満足心身快樂ナラン事ヲ祈願シ謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第二番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

殉難報国殉職ノ諸英霊等追善供養並ニ村中祈念ノ菩提ノ為流行病疫難等ヲ遁ガサセ賜工ト謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第三番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日謹ンデ大恩ノ教主本釈迦牟尼仏西方阿弥陀如来御脇立觀世音菩薩聖至菩薩二十五ノ菩薩十三仏様工御回向敬ヒ拝シ奉リ諸事建立衆中祈念菩提ノ為謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第四番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日御宿元御先祖代々有縁無縁ノ仏様工追善供養並ニ家内安全子孫繁盛五穀豊作病疫難流行病ヲ遁ガサセ給工ト融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第五番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日参詣ノ衆中老若男女不残此ノ一座ノ総同行家内安全子孫繁盛五穀豊作病疫難流行病ハ善盛皆来悪精退散融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

特別第三番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日謹ンデ大恩ノ教主本釈迦牟尼仏西方阿弥陀如来御脇立觀世音菩薩聖至菩薩二十五ノ菩薩十三仏様工御回向敬ヒ拝シ奉リ新二元 - - - - 菩提ノ為謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

阿久比虫供養算木組方

最初六本積十回 引続キ四本積十回ニテ休三

次ニ 五本積五回 六本積五回

虫供養大回向 第一番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今上天皇陛下聖寿無窮人民和平皇国強固国土昇平当町内中家内安全子孫長久風雨順調五穀豊熟成ラン事ヲ祈願シ謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第二番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

殉難報国殉職ノ諸英霊等追善供養ノ為融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第三番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日謹ンデ大恩ノ教主本釈迦牟尼仏西方阿弥陀如来御脇立觀世音菩薩聖至菩薩二十五ノ菩薩十三仏様工御回向敬ヒ拝シ奉ル此ノ虫供養大念仏ノ御功德ニ依リテ草木国土悉皆成仏並ニ鳥畜類魚類虫類等ニ至ル迄無量無邊ノ法樂ヲ受ケ速ク仏果ヲ成ゼシメシメガ為ニ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第四番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

阿久比町内家々先祖代々有縁無縁ノ諸靈追善菩提ノ為有難キ南無阿弥陀仏ノ御功德ニ依リ諸人ヲ利益シ七世ノ父母御先祖皆成仏ス此ノ大念仏八大善根ナリ願クバ此ノ功德ヲ以テ平等一切ニ施シ同ジク菩提心ヲ起シテ安樂国ニ入ラシメ給フ謹ンデ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

第五番

三尊阿弥陀如来様工敬ヒ拝シ奉ル

今日此ノ謹行ノ大念仏八諸事建立寄付有志者又此ノ一座ノ総同行衆及ビ参詣ノ善男善女今世安穩後生善生病無ク災イナク善盛皆来悪精退散心願成就シ諸縁吉祥ヲ得セシメ給ワラン事ヲ融通百萬遍大念仏ノ御回向ヲ敬ヒ拝シ奉ル

本回向

願以此功德平等施一切同発菩薩心往生安樂国

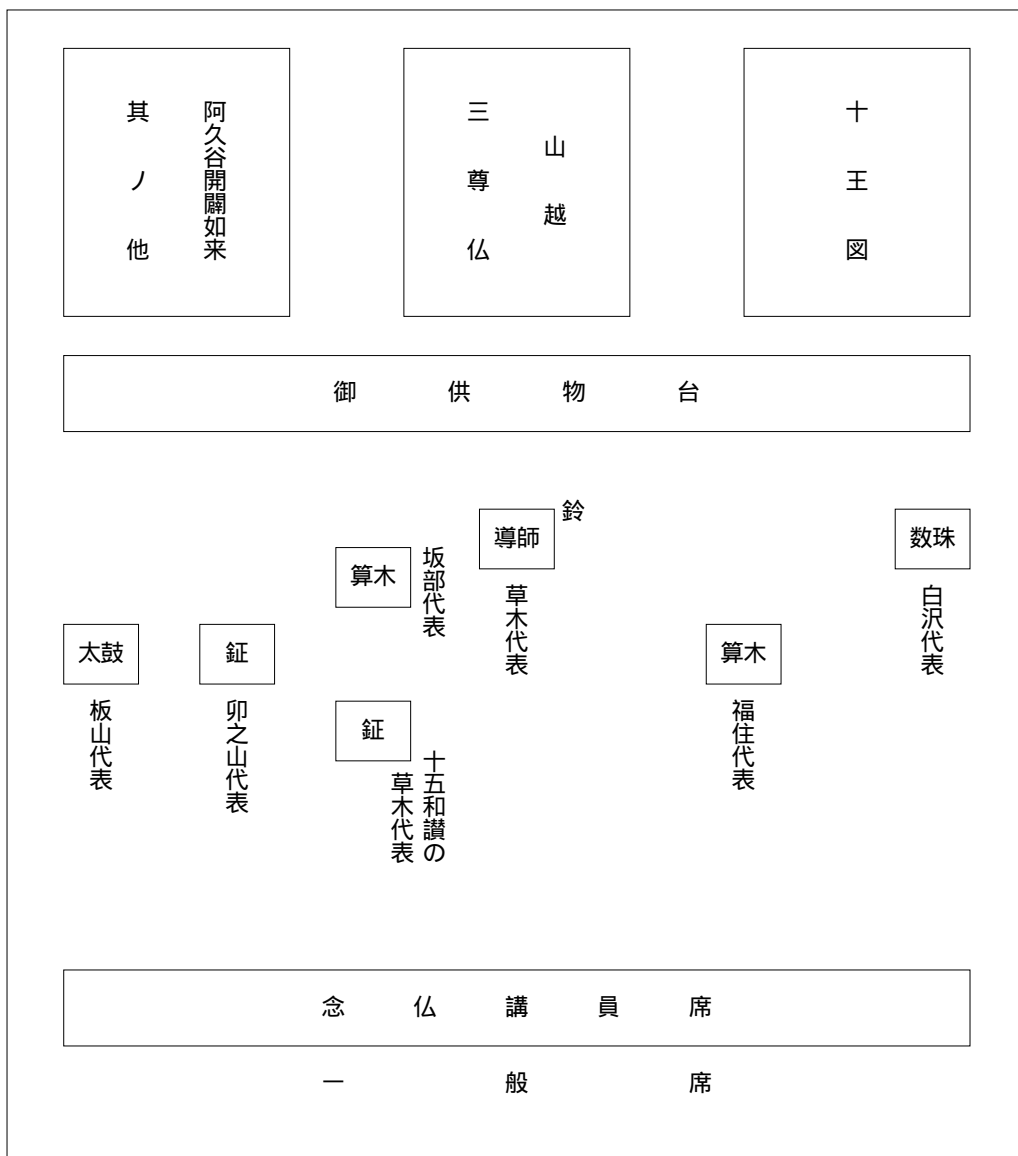
南無無盡十方三世之諸仏無盡以一切諸菩薩摩訶八萬諸聖經皆是阿弥陀仏

諸行無常是生滅法生滅々己寂滅為樂迷故三界城悟故十方空本来無東西

何処有南北懺悔懺悔六根清浄滅除煩惱滅除業障一仏成道貫匡法界

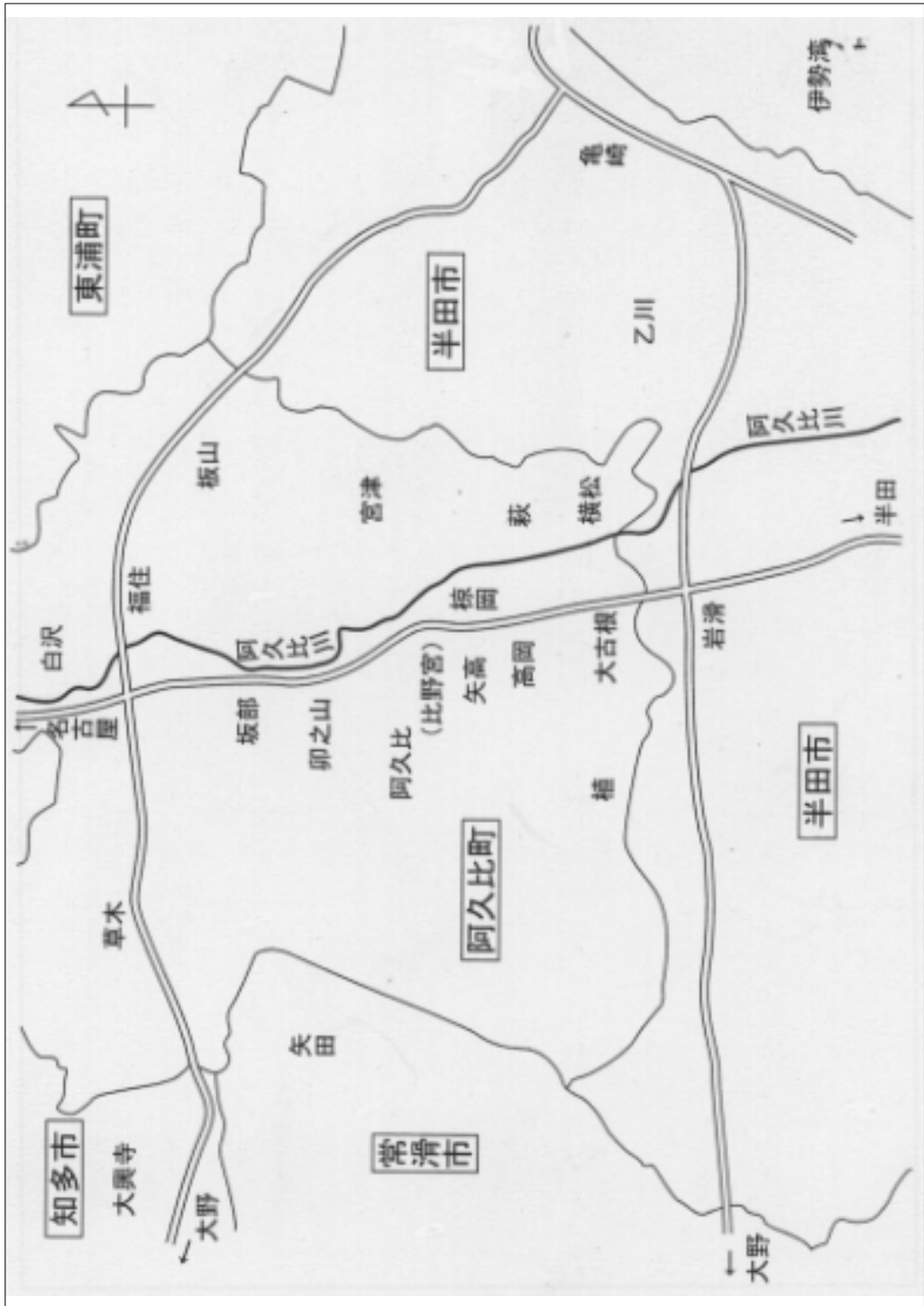
草木国土悉皆成仏

大念仏謹行位置図



竹内禅英『阿久比谷蟲供養郷土史』より

阿久比周辺概念図





大野谷榎戸講念仏



阿久比虫供養寒干し 矢口



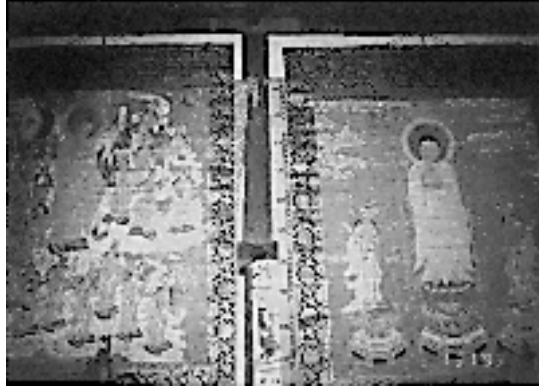
阿久比谷 山越し阿弥陀(1)



阿久比谷 十王図⁽²⁾



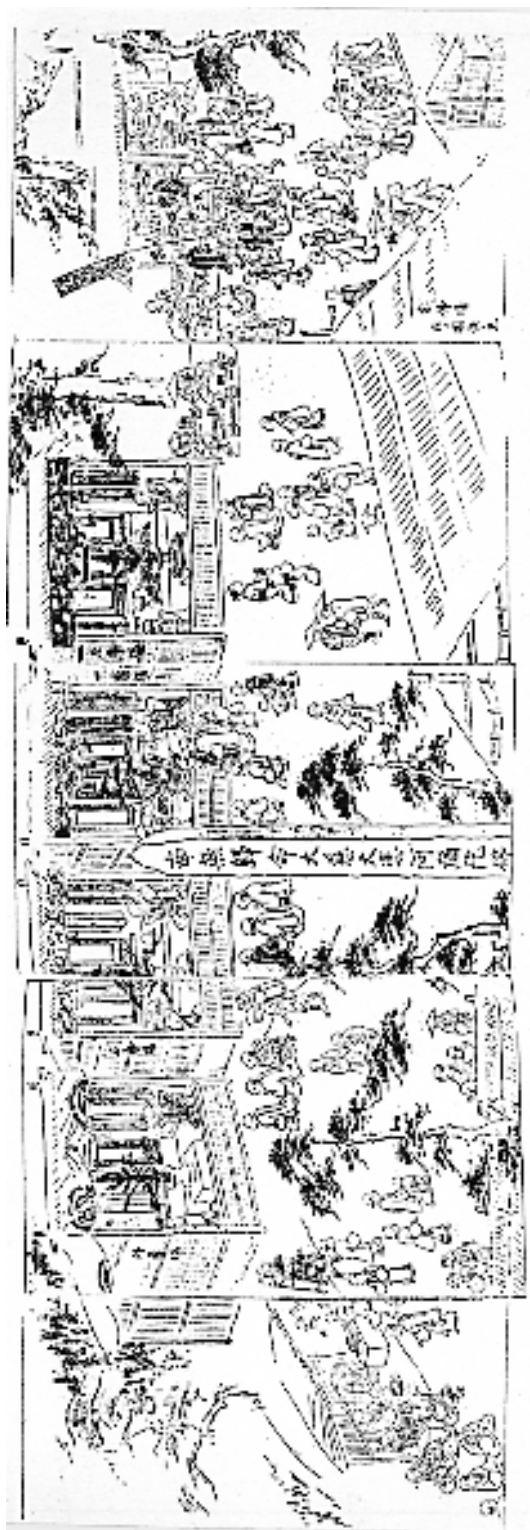
阿久比谷 住古阿弥陀⁽¹³⁾



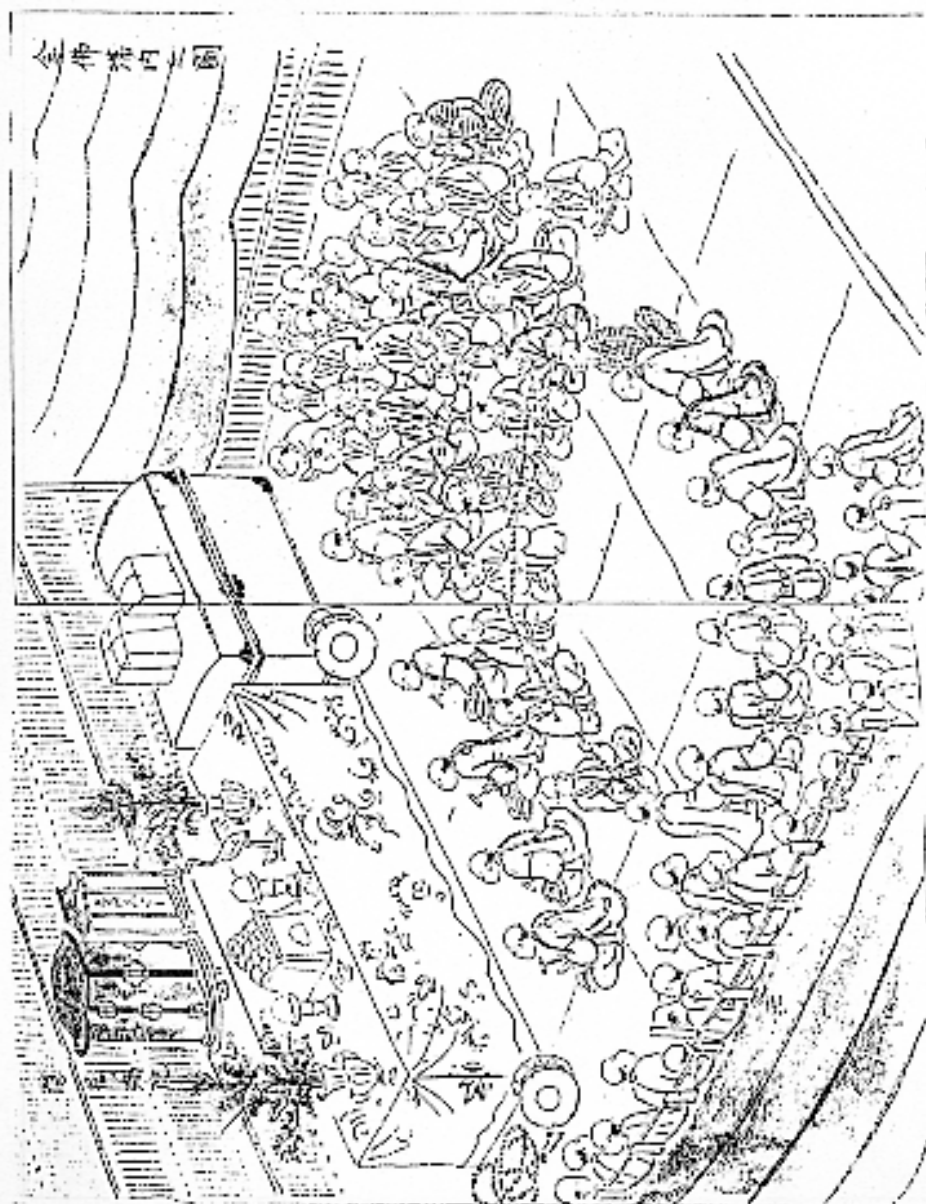
阿久比谷 二十五菩薩來迎圖(5) 阿彌陀三尊立像(4)



阿久比谷 阿彌陀來迎圖(7)



図絵 1 西浦虫供養の様子(1) 『張州雜志』



図絵 2 西浦虫供養の様子(2)『張州雜志』



図絵3 西浦虫供養の様子(3)『尾張名所図絵』